

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成20年7月3日(2008.7.3)

【公表番号】特表2008-503753(P2008-503753A)

【公表日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2008-005

【出願番号】特願2007-517999(P2007-517999)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/566 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

G 0 1 N 33/543 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/566

G 0 1 N 33/53 G

G 0 1 N 33/53 S

G 0 1 N 33/543 5 9 5

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月15日(2008.5.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アナライトを含有する液体試料と固体支持体表面とを接触させ、そして該表面での結合事象を検出することにより、アナライトと固体支持体表面に固定化された結合剤との相互作用を測定する方法であって、試料は固体支持体表面と相互作用できるアナライト以外の少なくとも 1 種の分子種を含有する複雑な媒体に基づいており、該方法はアナライト含有試料と固体支持体表面とを接触させる前に、アナライトを含まない試料媒体と該表面とを接触させることを包含することを特徴とする、上記方法。

【請求項 2】

固体支持体表面とアナライト含有試料とを接触させた後に、アナライトを含まない試料媒体と再度接触させ、そして該表面からのアナライトの解離を測定することを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

相互作用の結合定数、解離定数、結合速度定数および解離速度定数の少なくとも 1 つを測定することを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

試料中のアナライトの濃度を測定することを特徴とする、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の方法。

【請求項 5】

複雑な媒体が体液であることを特徴とする、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の方法。

【請求項 6】

複雑な媒体が、細胞培養培地、細胞溶解物、植物粗抽出物、液体食料品、抽出された食料品、および溶解された食料品、から選択されることを特徴とする、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の方法。

【請求項 7】

試料が、薬物を患者に投与した後で患者から採取された血漿または血清に基づいており、そしてアナライトを含まない試料媒体が薬物を投与する前の患者から採取された血漿または血清に基づいていることを特徴とする、請求項 1～5 のいずれかに記載の方法。

【請求項 8】

固体支持体表面がセンサー表面を含有し、そして該表面への結合がセンサー表面の特性の測定可能な変化を生じさせることを特徴とする、請求項 1～7 のいずれかに記載の方法。

【請求項 9】

センサー表面がエバネセント波の感知、好ましくは表面プラズモン共鳴（SPR）に基づくバイオセンサー部分であることを特徴とする、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

薬物の血漿結合性向を測定する方法であって、この方法が、（i）血漿を含有する複雑な媒体中、および（ii）複雑ではない媒体中で、薬物に対する固定化結合剤への該薬物の結合を測定すること、ならびに血漿含有媒体中の薬物の結合と複雑ではない媒体中の薬物の結合とを比較することを含み、この血漿含有媒体中での薬物の結合の測定が、請求項 1～5、8 および 9 のいずれかに記載の方法に従って実施されることを特徴とする、上記方法。

【請求項 11】

分子結合相互作用を検出する分析システムであって、以下の：

少なくとも 1 つの感知表面を含むセンサー装置；

少なくとも 1 つの感知表面での分子結合相互作用を検出するための検出手段；

時間ごとの相互作用の進行を表す検出データを提供するための手段；

を含み、このシステムがさらに、請求項 1～10 のいずれかに記載の方法の段階を実施するためのコンピューター処理手段を含むことを特徴とする、上記分析システム。

【請求項 12】

プログラムがコンピューター上で作動しているとき請求項 1～10 のいずれかに記載の方法の段階を実施するための、コンピューターで読み取り可能な媒体上に保存された、または電気的もしくは光学的シグナル上で処理されたプログラムコード手段を含んでいるコンピュータープログラム製品。